



## 地域研究（欧州）

（6月30日）

（ア）年から（イ）年にかけて起きた普仏戦争の「普」とは（ウ）を指すが、その国の鉄血宰相（エ）の政治手腕により、ドイツは統一を実現した。なお、その建国式は、敗戦国であるフランスの（オ）で行われた。他方、敗戦に伴い、フランスの（カ）は退位することになった。

※（キ）年にフランス革命がおき、（ク）は処刑された。その後の混乱期に頭角を現し、皇帝の座についたのは（ケ）である。彼はヨーロッパを広範囲にわたり支配するが、最終的には戦争に破れ失脚する。その後のヨーロッパの秩序について話し合うための会議は、（コ）の首都である（サ）で開かれた。

（シ）年、（ス）をきかけとし、第1次世界大戦が勃発したが、この戦争で負けたドイツ、（コ）や（セ）では帝政が崩壊した。なお、この戦争でドイツを破ったフランスは、ドイツより（ソ）を奪い、支配下におくが、1935年、この地域はドイツに復帰した。なお、その当時、ドイツを治めていたのは（タ）であるが、（チ）年、彼の率いる軍が（ツ）へ侵攻することによって第2次世界大戦が勃発した。この戦争はヨーロッパでは（テ）年（ト）月に終わるが、勝利したフランスは（ソ）を再び支配下におく。このように、この地域の帰属が両国間で揺れ動いたのは、この地域が（ナ）であるためである。そのため、1950年5月、（ニ）は（ヌ）の生産を共同で管理する国際組織の設立を提唱した。1952年7月、これに賛同した6ヶ国によって最初のヨーロッパ共同体、つまり、（ネ）が設立された。その6ヶ国とは（ノ）（ハ）（ヒ）（フ）（ヘ）（ホ）である。なお、これにイギリスは含まれていない。当時、イギリスは自らを世界大国として捉えており、主権、つまり、立法権、（マ）、司法権を部分的に放棄して国際組織に加盟することは世界大国としてふさわしくないと考えていたこと、また、ヨーロッパ諸国との関係より海外領土・植民地との連合組織である（ミ）との関係を重視していたことが挙げられる。

1955年10月、（ソ）の住民は国民投票を実施し、（ム）への復帰という道を選択した。1957年元旦、復帰が実現するが（ただし、（ム）の通貨マルクの導入は1959年7月）、石炭・鉄鋼の産地は、新しいヨーロッパの枠組みの中で、（ム）に帰属することになった。

最初のヨーロッパ共同体の成功を受け、1958年、6ヶ国は、さらに（メ）と欧州原子力共同体を設立した。（メ）にはさまざまな側面があるが、加盟国間の貿易には関税や数量制

限は課されず、他方、日本や米国といった第3国との貿易については関税や数量制限を設けてもよいが、それは加盟国間で統一されなければならない。そのような組織を（モ）と呼ぶ。

※ A国では100万円で車が生産・販売されているが、B国より95万円の車が輸入されるとすれば、A国産車の売り上げは落ちることが想定された。そのため、A国は輸入車に10%の関税をかけた。その結果、B国産車の販売価格は（ヤ）万円となった。これに対し、B国のメーカーが車の価格を90万円に下げるとすれば、10%の関税がかかるにせよ、販売価格は（ユ）万円となり、A国産より安くなる。このように企業努力によって関税の効果を失わせることができるため、数量制限がとられることがある。例えば、年間あたり1000台を超えた輸入は認めないという措置である。数量制限は貿易を制限する効果が高いため、WTO諸協定では禁止されている。他方、関税措置は認められているが、関税率を引き上げることは禁止されている。

上述したように、（メ）の加盟国間の貿易に（ヨ）や数量制限を設けてはならないが、ある加盟国で適法に生産され販売される商品は、他の加盟国でも自由に販売されなければならない。つまり、自国の法に反するとの理由で、他の加盟国からの輸入・販売を禁止することはできない。例えば、（ラ）の輸入・販売を禁止してはならない。

このように、商品だけではなく、（リ）（ル）（レ）の移動の自由も保障されている。例えば、ある加盟国の国民は他の加盟国へ移動し、自由に働くことが保障されているため、いわゆる（ロ）によって他の加盟国出身の選手の登録・出場を制限することは許されない。このように、4つの移動の自由が保障されている空間を（ワ）と呼ぶ。

ところで、三つのヨーロッパ共同体は、前述したように、（A）ヶ国で設立されたが、イギリスはより多くの国が参加する自由貿易地域の創設を提唱した。しかし、フランスによって拒否されたため、イギリスは、諸共同体に加盟しない諸国とともに、EFTAを設立する（1960年）。EFTAは加盟国間の貿易には（B）や数量制限を設けず、自由化する一方で、第3国との通商に関する規則は統一しない点で（C）と異なる。また、（D）とは異なり、農業政策に関する管轄は与えられていない。

EFTA設立からわずか1年後の1961年、ヨーロッパで最も貧しい国の一つにまで成り下がっていたイギリスはEC加盟を望むようになるが、2度にわたり（1963年と1967年）、フランスから肘鉄砲を食らった。つまり、米国や（E）との関係を重視するイギリスは、外からは破壊できない欧州共同体を内から壊す目的で加盟しようとしていたフランスのシャルル・ド・ゴール大統領は、イギリスの加盟申請を退けた。同国の加盟が実現したのは、ド・ゴール大統領が政界を引退した後の1973年である。

ECに加盟した後もイギリスは欧州統合に積極的になっただけではない。例えば、加盟国はECに資金を出さなければならないが、サーッチャー首相は、就任早々、加盟国首脳会議で、「私

のお金を返してください」と発言した。この要求に従い、加盟国はイギリスに拠出金の一部を返還しているが、これは現在まで続いている。

現在、多くの EU 加盟国間ではパスポート検査は廃止されているため、検査を受けることなく自由に行き来することができる。これは ( F ) 協定に基づいているが、イギリスはこれに参加していない。

上述したように、( M ) では、( G )、人、サービス、資本の移動の自由が保障されているが、加盟国間の為替レートが変動するとすれば、自由な移動が妨げられる。そのため、EU は加盟国の通貨を統一している。この単一通貨を ( H ) と呼び、加盟国はそれを導入することが EU 法上、義務づけられている。しかし、イギリスには例外が認められている。つまり、イギリスは単一通貨を導入していない。

( I ) 年に設立された欧州経済共同体 (EEC) は、その後、( J ) 以外の分野でも権限を持つようになり、1993 年 11 月、( K ) と名称が変更された。それと同時に、( L ) が創設された。その法的基盤となったのは ( M ) 条約である。当時の ( N ) はいわゆる 3 本柱構造を採用しており、3つの共同体は 1 本目に組み込まれた。なお、2本目の政策は( N )、3本目の政策は司法内政分野における協力である。

その後、( M ) 条約は改正され、現在の EU は ( O ) 条約に依拠している。

問題 以下の EURO2016 に参加する国・地域の内、EU に加盟しているもの加盟順に挙げなさい (古い順に挙げること)。なお、同時に加盟した国・地域については、それが分かるように記載しなさい。

グループ A	グループ B	グループ C
アルバニア スイス フランス ルーマニア	イングランド ウェールズ スロバキア ロシア	ウクライナ ドイツ ポーランド 北アイルランド

グループ D	グループ E	グループ F
クロアチア スペイン チェコ トルコ	アイルランド イタリア スウェーデン ベルギー	アイスランド オーストリア ハンガリー ポルトガル